

# はにい

## ねじねじって？

平成29年5月8日

『じぶんのあさがおに、お水あげた？』

ある小学校の1年2組の教室

「うん、花がさいてた。」「まだ、花はひとつもないよ。」「あ、わすれてた…。」

『どんなお花がさいてたの？』

「ピンクのお花。」「え、おれのは、あおかったよ。」「まだなーい。」

『どのくらいの大きさだった？』『どんなかたちだったの？』

などなど、先生と子どものやりとりが続いていくと、自分のはどうなっているんだろう、どうだったかなと教室の中はだんだんとソワソワした雰囲気。

『じゃ、見に行ってみようか。』その言葉を子どもたちは待っていました。

「いえーい！」

照りつける日差しの中で、

「みてみて、わたしの手とおなじ大きさだよ。」

「かたちは、まるみたい。」

「え？さんかくじゃない？しかくかな？」

「花びらがみんなつながってるよ。1まいになってる。」

「ほんとだ。」

「なんにもおいしくない。」

「はっぱのにおいがする。」



子どもたちの口から、見て、触って、嗅いで、感じた、思うままの言葉があふれだします。

「これなに？」「ねじねじ。」

「つぼみだよ。」「これもつぼみ？(しぼんだもの)」

『花ってどうなってさくのかな？急にぱっとでてくるのかな？』

「ちがうよ。そんなことはないよ。」

『じゃあ、どうなってさくのかな。明日も見てもみようか。』

つぼみってなんだろう？どんな形で、どうなっていくんだろう？知りたい気持ちが明日の活動につながっていきます。